

2015/6/16 輪読

With Sadness Comes Accuracy; With Happiness, False Memory

Mood and False Memory Effect

Justin Storbeck and Gerald L. Clore

発表者 M1 福岡未紗

1

目的

- 感情は、課題遂行や記憶を弱めたり高めたりする。
- ポジティブ感情は関連プロセスを促進し、ネガティブ感情は項目特有プロセスに帰着する。
- 感情が関連プロセスに影響を及ぼすなら、ポジティブ感情の参加者は虚偽記憶効果をより見せやすいはず。

【本研究の目的】

- DRMパラダイムを用いた虚偽記憶効果にどのような感情状態が影響を及ぼすのかを調べること。

2

DRMパラダイム

- Deese-Roediger-McDermott パラダイム(1995)



3

2つの実験

【実験1】

- McDermott and Watson(2001)の手続きを使用。
- ルアー語を思い出すのに感情状態が影響を及ぼすかどうか。

【実験2】

- 実験1とほぼ同じ手続き。
- 感情が影響を及ぼすのは、符号化の活性化か、検索の観察過程かどうか。

4

実験1 方法

- 実験対象: 大学生100名
- それぞれの感情を引き起こすために音楽を使用(8分)
- 36リスト×15単語
- 1単語250msで表示、単語間は32ms空ける
- 《The king list》
- “happy”をルアー語にしたもの
- “sad”をルアー語にしたもの

半々でどちらか一方を見せる

5

実験1 方法

- コンピュータとヘッドフォンを使って、音楽と単語学習課題を提示。
- 感情操作の目的を隠すための話と指示を受ける。
- 指示後、音楽を聴き、簡単な記憶課題を行う(統制群は記憶課題のみ)。
- 全ての群が初めにthe king listを受け、残りのリストはランダムに表示される。
- 電子音を合図にそれぞれのリスト語を思い出し、報告する(45秒ごとに電子音が鳴る)。
- 課題終了後、感情操作チェックやフェイスシートなどの質問紙に記入する。

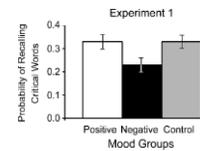
6

実験1 結果

- 感情操作ができなかった16名を除き、分析
- ポジティブ群: 32名
- ネガティブ群: 32名
- 統制群: 20名

7

実験1 結果



- ルアー語の想起確率
- ポジティブ群 > ネガティブ群
- 統制群 > ネガティブ群
- ルアー語以外の想起に差はなかった

8

実験1 考察

- ネガティブ感情は、虚偽記憶効果を低下させる
- 検索の観察過程に影響する感情についての傾向が原因では？

9

実験2

- なぜネガティブ感情が虚偽記憶を低下させたのか。
- 可能性1: ルアー語の分かりやすさが低下した。
- 可能性2: 自発的にルアー語を報告しなかった。
- 見分ける方法=inclusion instruction
- 見たものを思い出すだけでなく、課題中にいくつか追加で思い浮かんだ関連語をリスト化する。
- →もし実験1の原因が分かりやすさにあるなら、各群の違いがinclusion instructionに反応を示すはず

10

実験2 方法

- 実験対象: 大学生119名
- 実験1の手続き+inclusion instructions
- 包含的ルアー語(追加で思い浮かんだルアー語)
- 全体的ルアー語(報告されたルアー語)
- 包含的リスト語(追加で思い浮かんだリスト語)
- 包含的エラー語(リスト語とルアー語以外の単語)
- 実験短縮のために6リストを除外
- “happy”リストではなく、“sad”リストを提示

11

実験2 方法

- 実験1の手続きとほぼ同じ。
- 《変更点》
- 提示された単語と関連して思い浮かんだ単語を各々のリストにおいて45秒で書き出す。

12

実験2 結果

- 感情操作ができなかった29名を除き、分析
- ポジティブ群: 31名
- ネガティブ群: 24名
- 統制群: 35名

13

実験2 結果

Dependent variable	Mood group			F
	Positive	Negative	Control	
Probability of veridical recall	Experiment 2 .37 (.06)	.37 (.05)	.36 (.05)	<1
Mean error production	9.6 (13)	8.0 (8.5)	9.2 (9.5)	<1
Mean inclusion error production*	9.6 (7.5)	10.5 (10.9)	8.9 (5.7)	<1
Mean exclusion error production*	19.4 (20)	29.9 (37)	14.6 (18)	2.8†
Probability of inclusion lure production*	0.17 (0.14)	0.29 (0.15)	0.16 (0.17)	<1

Note. Standard deviations are in parentheses.

*See Experiment 2 Method for an explanation of these variables.

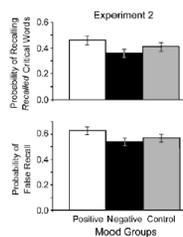
† $p < .1$.

- 2(recall) × 3(group)の分散分析→相互作用の欠如
- リスト語、エラー語の想起に群全体の差はなかった

14

実験2 結果

- ポジティブ群はネガティブ群に比べ、ルアー語をよりリスト化する。
- 相互作用の傾向がない＝ネガティブ群における虚偽記憶効果の低下は符号化間のルアー語の活性化低下による。



15

実験2 考察

- ネガティブ感情の方が虚偽記憶を低下させる傾向にある。
- 虚偽記憶に対する感情の影響は検索過程より符号化の差が原因。
- しかし
- 想起と群の間にある相互作用の失敗から予想されている。
- 感情状態の影響は、符号化の活性化に対してと同じぐらい、モニタリング・プロセスにも及ぼしている可能性がある。

16

総合考察

- 感情は虚偽記憶効果に影響を及ぼす
 - ネガティブ感情はルアー語の想起をしにくくする。
- ポジティブ群は想起する点で統制群と異なっていない
 - ポジティブ状態と中間状態では、脳の活性化部位にもしばしば違いが現れない。
 - 虚偽記憶効果の基礎となる関連プロセスはネガティブ感情以外が普通の状態。
 - ネガティブ感情は虚偽記憶効果の基礎となる関連プロセスを変えることで、虚偽記憶効果を低下させる。

17

総合考察

- 活性化モニタリング理論
 - 虚偽記憶効果に関係なく、ルアー語は符号化時に活性化され、観察過程を決定付ける。
 - 実験2で観察過程の影響はなかった。
- ファジートレース理論
 - 正再生は逐語的記憶、偽再生は要旨的記憶から行われる。
 - 感情は逐語的記憶よりも要旨的記憶に影響する。
 - 本研究の主張と一致する。

18